

2017年度

# 東大合格への受験勉強の進め方

～ 参考書・問題集 活用法 ～

東進東大特進コース

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント	特記事項
文一 82 (80)	*高1高2で単語・文法・和訳を完成させました。リスニングは高2までは毎日、高3は一週間に1回程度行っていました。週に1度塾で東大形式のテストを受けていました。使用した教材は『鉄緑会 東大英単語熟語 鉄壁』(角川学芸出版)『頻出英文法・語法問題1000』(桐原書店)『キムタツの東大英語リスニング』(アルク出版)『基礎英文問題精講』(旺文社)	*学校の授業を単語帳のみです。二次の過去問の和訳を少しやりました。	*塾の夏期講習を受講しました。1日1時間のディクテーションを3日行いました。リスニング力が格段に上がった気がします。リスニングはコツコツやることも大事ですが、一度にまとめるやると一気に伸びることもあります。自分に聞こえない音を1つ1つ確認していって下さい。二次の過去問の要約を行いました。	*学校の授業と単語帳のみです。	*単語帳のみです。	*センター過去問の発音・アクセントの問題のみ解きました。単語は継続しました。	*単語帳のみです。	*単語帳はCDを使い、耳から覚えるのと定着が早く、忘れにくい。英語は単語、文法を早く完成させると、得点源になります。文法は決しておろそかにしないでください。英作文や段落・文秩序、長文などは基礎がしっかりしていれば、センター後からでも間に合います。高3で他教科に時間を割けるように高2までにある程度仕上げておくといいと思います。	
文一 92	*特別なことはしませんでした。			*『英文標準問題精講』(旺文社)を一ヶ月で一周しました。 *『英文要旨要約問題の解法』(駿台文庫)を一ヶ月で一周して英語に対する自信をつけました。			*特別なことはしませんでした。	*英語は早い段階で基礎を固めてしまい、その後は毎日英語にふれる機会を作れば自然と得意意識を持てるようになります。	
文一 86 (75)	*高2までに完成させておくつもりでしたが、未完成も甚だしい状況になってしまいました。塾の問題集を中心に取り組みました。	*文化祭が終わってから演習量を増やしましたが、社会の勉強を圧迫しない程度に頑張りました。	*この頃から本格的にリスニング対策を始めました。学校の先生の教材を使用しました。		*休暇ということもあり、演習量を増やしましたが基本的なスタイルは変わりません。	*センター試験対策も二次試験対策も特にしなかったので空白になってしまいました。 *リスニングをさぼってしまったのが悔やまれます。	*過去問を10年分ほどやりました。 *リスニング教材として『鉄緑会 東大英語リスニング』(角川学芸出版)を使用しました。	*欠かさずやることです。	
文一 74 (70)	*塾はテストゼミ形式だったので毎週東大形式の問題を1年分解いていました。予習として要約、英作文を解いて授業のテストゼミで他の問題を解きました。帰宅後、テストゼミの問題文中に出てきた分からなかった単語について調べる等の復習を次週までにやるというサイクルでした。		*『鉄緑会東大英単語熟語 鉄壁』(角川学芸出版)を用いました。			*センター試験に不安はなかったのですが、センター過去問は1年分にとどめて、1週間に一回程度東大の二次の過去問を120分で解いていました。	*数学と社会に力を入れていたため、1週間に一回程度東大の二次の過去問を120分で解くだけにとどめました。	*英作文は可能な限り他人(ネイティブ)が望ましいに採点してもらおうが良いと思います。	
文一 74	*学校行事で忙しく、英語の勉強はほぼできませんでしたが、センター英語で190点を取れる程度の学力はあったので、危機感が無かったことが後に響いてきました。	*世界史や数学に時間をかけており、英語にはあまり手をつけられませんでした。単語量を増やすべく『鉄緑会東大英単語熟語 鉄壁』(角川学芸出版)を少しずつ読み進め、また英文記事も読み始めました。それと並行し、東大特進の英語を受講しました。	*『鉄緑会東大英単語熟語 鉄壁』(角川学芸出版)を読み進め、問題演習として『長文問題精講』(旺文社)を解き進め、また『キムタツの東大英語リスニング SUPER』(アルク)をリスニング教材として利用しました。	*夏模試が満足な結果に終わり、夏の勉強を一切やらなくなりました。この時期は東大特進の教材を用いるのみでした(過去問の演習は少しずつ始めました。)	*秋模試で大失敗し焦りました。和訳が苦手だと判断し『ボレボレ英文読解プロセス50』(代々木ライブラリー)を進めました。 *また『ドラゴンイングリッシュ基本英文100』(講談社)を購入し、英作文を速く書けるようになることを目指しました。	*先述の2つの参考書を継続しました。 *また、東大式の過去問にも触れました(センターの過去問を5回分しか解かなかったため、188点と大失敗)。	*『ボレボレ英文読解プロセス50』(代々木ライブラリー)を完成させつつ、さぼってしまった『長文問題精講』(旺文社)を終わらせ、またキムタツの教材を使つてのリスニング対策も進めました。 *英文記事も読み進めるようにし、英語にウェイトを置きました。 *また、東大式の冬休みから合わせて10年分ほどは解きました(加えて『東大の英語25ヵ年』(教学社)も利用)。	*直前期に英語に多く触れた結果、90点以上取れるレベルには達しましたが、本番では大失敗して80点にも届きませんでした。恐らく単語力と文法の基礎が弱く、点を安定して取れない状態だったからかもしれないです。堅実な勉強を勧めたいです。	一応帰国子女で、リスニングだけ他より得意だった。
文一 84 (70)		*高2の秋に「Next Stage」(桐原書店)をやりました。それ以降は、英語が得意で、他の教科がかなり遅れていたため、英語は学校の授業と週一回の塾の授業以外では触れませんでした。				*1年分、センターの過去問を解きました。	*3年分ほど、2次試験の過去問をやりました。	*過去問演習をし、時間配分を考えることはとても重要です(私はそれを怠ったため、本番で失敗しました)。	高校で1年間留学していました。

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント	特記事項
文二 87 (75)	<p>*『Next Stage』(桐原書店) 1日100題程度解き、間違えた問題にチェックを入れて翌日見直すようにしていました。2週間以内に終わらせるのが良いと思います。</p> <p>*『東大英単語熟語鉄壁』(角川学芸出版) 1日1セクションずつ寝る前にやっていました。例文や絵、他の語との関連等に気を付けて、出来るだけ1回で覚えようと唱えながら寝ていました。</p>	<p>*『東大英語総講義』(東進ブックス) 1B対策やリスニングの章が特におすすめです。</p>	<p>*『ドラゴンイングリッシュ基本英文100』(講談社) 英作文対策に使用しました。リスニング音声を使いながら暗記してしまおうと英作文を解くスピードが上がります。</p>	<p>*『東大の英語25ヵ年』(教学社) 夏の東大模試前に要約だけ先にやっていました。年ごとのセットで解くというよりは、同じ形式の問題を一気に解いてしまおうという方がオススメです(センター試験型の問題についても同様)。</p>			<p>*東大本番レベル模試の過去問模試の復習(英作文で使えそうな表現をピックアップ)</p>	<p>*まずは単語と文法を覚えることが重要です。単語帳を何度も繰り返しやるのが重要ではなく、内容をしっかりと覚えていることが底力の向上につながります。英作文は放置していると解くスピードが落ちるので、定期的に触れておきましょう。</p>	<p>幼少期に少しアメリカに住んでいたため、リスニングだけ周知より得意でした。</p>
		<p>*『英文解釈の技術100』(桐原書店) 1日4題ずつやっていました。演習問題と合わせて200題以上あるので、焦らずやるのが良いです。</p>							
文二 74 (67)	<p>*学校の授業で英文を読むほかには特にしていませんでした。</p>		<p>*単語帳『単語王2202』(オー・メソッド出版)を始めました。</p>	<p>*他の科目に時間を割くため、学校の授業のみでした。</p> <p>*リスニングは『キムタツの東大英語リスニング』(アルク)を登校時間にやりました。</p>	<p>*単語帳を始めました。</p> <p>*私用の過去問を一週間に二回ほど解き、長文に慣れるのに使っていました。</p>	<p>*センター試験の過去問を一日一年分を目安に解きました。</p>	<p>*東大模試の過去問題集で1日1回分の演習を行いました。</p>	<p>*私は、英語が得意科目でしたが、本番が時間配分がうまくできず点が伸びませんでした。秋ごろから本番形式に慣れておくことと、単語を強化するのが良かったと思います。</p>	
文二 96 (95)			<p>*『東大英単語熟語 鉄壁』(角川学芸出版)で単語を勉強しました。</p>				<p>*二次試験の過去問を3年分やりました。</p>	<p>*単語は大事です。</p>	<p>親がアメリカ人で、英語が喋れました。</p>
文三 80 (80)	<p>*塾の教材で勉強していました。</p> <p>*毎日英語に触れることを目標に、単語は『鉄緑会東大英単語熟語 鉄壁』(角川学芸出版)で学習していました。</p>			<p>*リスニング対策に、毎日PodcastでCNN Student News(現CNN10)を聞いていました。</p>	<p>*『キムタツの東大英語リスニング』(アルク)を1日1パートやりました。</p>	<p>*英語にはほとんど時間を割きませんでした。</p>	<p>*過去問を10年分やったり、塾の演習を見直したりしていました。過去問や東大の問題を解く際には、時間を10分短くして解いていました。</p> <p>*リスニングは毎日やりました。</p>	<p>*英語、数学は高2までに固めることが大切ですが、私は高3で英語にあまりにも時間を割かなかった結果、本番で失敗してしまいました。そのようなことがないように、毎日必ず英語に触れるようにしてほしいと思います。</p>	
文三 75 (80)	<p>*『東大英単語熟語 鉄壁』(角川学芸出版):単語がわからないとはじまらないので、毎日1セクションを目安に進めていきました。例文を覚え、和訳からの再現を行いました。</p> <p>*東大特進のテキストの英文の音読を行いました。</p>	<p>*過去問を解き始めました(過去問演習講座)。1年解いた後には1A、2B、5を音読して、文章構造をフローチャートで示しました。</p>	<p>*過去問演習を継続しました。</p> <p>*模試のリスニング音源を利用して1.5倍速で聴きました。</p>	<p>*過去問演習を継続(10年分を2周)しました。リスニングはシャドーイングを繰り返し、完全に1つの話を図で再現できるようにしました。</p> <p>*東大特進のテキストで言いまわしを覚えました。</p>	<p>*東大特進のテキストをメインに行いました(復習+音読+構成の整理)。</p>	<p>*センター試験へ向けて他教科の対策を行ったのでやや英語はおろそかになってしまいました。センター英語にはほとんど時間を割かず、5日に1年のペースで二次の過去問に取り組みました。</p>	<p>*二次過去問で出来なかった問題を添削を受けつつ解き直し、満点答案を目指しました。</p> <p>*英作文で書くアイデアを増やすため、模試や過去問の解答を暗記しました。</p>	<p>*英語は継続の科目なので、毎日目でも耳でも触れる機会を作ってください!</p>	
			<p>*毎日、BBCのラジオを聴きました(二次試験まで継続)。</p>						
理一 (70)		<p>*『ターゲット 1800』(旺文社)を使い、とりあえず単語を頭に叩き込みました。また、『ディスコースマーカー英文読解』(Z会出版)を要約対策として取り組みました。</p>	<p>*『鉄緑会東大英単語熟語 鉄壁』(角川学芸出版)をまず一周しました。</p>	<p>*『東大の英語25ヵ年』(教学社)を毎日少しずつ解き始めました。</p>		<p>*『鉄緑会東大英単語熟語鉄壁』(角川学芸出版)の2周目をしました。</p>	<p>*東大レベル本番模試の過去問を解いていました。</p>	<p>*高2の終わりから高3の5月にかけて英語をおろそかにしていたら模試でひどい点数をとってしまったことがあるので、よく言われる通り、英語は毎日少しでも触れておくことが重要だと思います。</p>	
理一 (65)	<p>*『キムタツの東大英語リスニング BASIC』(アルク出版)を進めました。</p> <p>*『英作文が面白いほど書ける本』(東進ブックス)を2周しました。定型文をおぼえていくほど点が取れます。最初は全然書けないのが普通なので、答えをどどん覚えていきましょう。</p>		<p>*『キムタツの東大英語リスニング BASIC』(アルク出版)を進め、たまにはTEDを見るようにしました。</p>			<p>*センター試験対策は特にせず、いつも通りをこなしてきました。</p>	<p>*過去問を多く解きました。</p>	<p>*全体を通して、他大学の過去問を多く解きました。東大入試は早く読むことが求められますが、精読の練習をきちんとしないと理解が追いつかないので、速読に気を取られすぎないことが大切だと思います。</p>	
理一 (80)	<p>*主に学校の授業の予復習をしていました。</p> <p>*『攻略! 英語リスニング』(NHK出版)をしていました。</p>		<p>*『英文読解の原則125』(駿台文庫)(10月中旬まで)</p>	<p>*他大の過去問を解いて速読の訓練をしました。</p>		<p>*『東大の英語リスニング25ヵ年』(教学社)音の変化をノートにまとめていました。</p>	<p>*二次試験対策をセンター試験直前にもやらないと読解が遅くなります。リスニングの過去問は意外と時間がかかるので、早めにやり始めた方がいいです。</p>		
				<p>*『東大の英語25ヵ年』(教学社)を使って演習していました。</p>					





科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント	特記事項
理一 93 (80)	*学校で配布されたプリントで学習していました。			*赤本で2007年度～2016年度の東大の過去問を解いていました。			*『東大数学で一点でも多く取る方法』(東京出版)を使い、得点したい分野の問題を重点的に解き、解答を模写しました。	*自分で解いてみて間違えたら解答を理解することに加え、解答をよどみなく自分で再現できるか最後にチェックすることが重要です。	
理一 102 (100)	*『大学への数学 1対1対応の演習』(東京出版)と『大学への数学 新数学演習』(東京出版)を少しずつ進めていました。					*センター試験対策は特にしませんでした。データの分析の範囲のみ直前に『青チャート』(数研出版)を見直しました。	*今までの模試の見直しをし、東大特進の直前テストゼミで本番に向けて感覚を掴んでいきました。	*数学の解法は演習を重ねていくうちに素早く正確に思いつくようになってくるので焦らずにコツコツ続けることがポイントです。	
理一 110 (90)	*『チャート式 基礎からの数学Ⅲ』(数研出版)を使い、典型問題を正確に速く解けるようにしました。		*『標準数学ⅠAⅡB』『オリジナル標準数学Ⅲ』(数研出版)を学校の授業で使っていました。チャートの復習になっていました。		*問題集と並行して志田晶先生の「東大数学」の授業の予復習をしていました。		*センター試験後から過去問を11セット解きました。東大本番レベル模試の過去問も解いていました。		
		*『数学の計算革命』(駿台文庫)を使い、計算を正確に速くできるようにしました。							
理一 103 (100)	*『青チャート』(数研出版)と『大学への数学 新数学スタンダード演習』(東京出版)を解いていました。この時期は解き方を暗記するのみで意味の無い勉強をしていました。	*夏期集中講座の「東大数学」と「東大特進数学」を受講し、『数学重要問題集』(数研出版)を解いていました。	*『東大の理系数学25ヵ年』(教学社)の2000年から2007年、『大学への数学 新数学スタンダード演習』(東京出版)を解きました。	*冬期集中講座の「東大数学」を受講しました。	*『大学への数学』(東京出版)、『大学への数学 1対1対応の演習』(東京出版)のⅠ・A・Ⅱ・B・Ⅲの解説をざっと読んで、やった方が良かった問題のみやりました。特にⅠ・Ⅱが大事だと思いました。 *センター試験の過去問を10年分解きました。	*直前テストゼミを受講し、『東大の理系数学25ヵ年』(教学社)を10年分解きました。 *今まで苦手だった領域や範囲の問題は、与えられた条件を数式化して同値変形していくだけで解けることに気づき、そこを固めました。領域、確率、微積分が得点源として安定しました。	*僕は数学には2つのタイプがあると思います。 ①与えられた情報、条件を数式化して、同値変形して変形していくタイプ ②与えられた問題の特徴から今まで解いてきた問題を手掛かりにしながらか柔軟に考え、工夫して答えを導くタイプ ①を確実に解けるようになれば、東大の合格は近づくとおもいます。		
理一 75 (56)	*東進で長岡恭史先生の「微積分ぐんぐん[理系微積分+α]-応用編-」を受講していました。 *学校の授業で入試問題集を進めていました。	*長岡恭史先生の「東大特進数学」も受講していました。	*二次試験の問題に歯が立たなかったため、慣れが足りないと考えて『東大の理系数学25ヵ年』(教学社)に取り組み始めました。	*『東大の理系数学25ヵ年』(教学社)を中心にしていました。まだこの時も二次試験の問題に歯が立たず、焦っていました。	*いわゆる「センター試験ボケ」を防止するために、『東大の理系数学25ヵ年』(教学社)を1日1題は必ず解くように心がけていました。 *センター試験の過去問を2、3年分は解きました。	*『東大の理系数学25ヵ年』(教学社)の2周目をして、完全理解を心掛けました。その助けとして、『東大数学で1点でも多く取る方法 理系編』(東京出版)を使いました。解説がとても分かりやすく、もっと早くから持っておきたかったと思いました。	*早く数Ⅲまで終わらせて、演習に時間を多く割き、過去問にもっと早く手をつけるべきでした。数学は最後まで苦手だったので、皆さんはそうならないことを願います。	*学校の進度が遅かった。	
理一 69 (40)	*『新課程クリア数学Ⅲ』(数研出版)を使い授業の復習や模試対策をしていました。	*『新課程 2016実戦数学重要問題集-数学ⅠⅡⅢAB(理系)』(数研出版)を解いていましたが数学が苦手な私にはあまり効果がありませんでした。	*『微積分/基礎の極意-大学への数学』(東京出版)の基本の計算練習の問題を毎朝30分でやり、夏休み中に何周かしました。 *受けた模試の復習を徹底しました。	*『東大の理系数学25ヵ年』(教学社)を使い、難易度の低いものから取り組みました。 *過去問には歯が立たなかったため、模範解答を読んで解答プロセスを確認する作業をしていました。	*午前にはセンター試験対策、午後は二次試験対策をしていました。 *二次試験対策としては、模試の解き直しをしていました。	*センター試験の過去問演習に専念していました。	*2日に1回過去問を年度ごとに解いていました。 *記述で曖昧な所は学校の先生に添削してもらっていました。	*数学は人によって実力差が大きくつく科目なので、自分に合った問題集を見つけることが重要だと思います。 *基礎にこだわることは大事ですが、レベルが追い付いていないうちから東大の形式に慣れることも重要だと思います。	

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント	特記事項
理一 115 (115)	*『数論の精選104問』(朝倉書店)を解いていました。内容は数学オリンピック向けのもので、非常に難しいのですが、それでも前半30問ほどは比較的易しく受験に非常に役立つと思います。もし前半52問が自力で解ければ、入試の整数問題で解けない問題はほぼないと思います。ただ、やはり難しいので、この本をやるのは数学に自信があって、整数問題を完璧にしたいという人のみで良いと思います。また「高校数学の美しい物語」というサイトには受験レベルの有益な事(大学レベルのものもあります)が書いてあるので暇な時に読んでいました。		*『入試数学の掌握 ①、②、③』(エール出版社)の問題を解いていました。理三志望者向けとなっていますが、数学を武器に戦うつもりで理一、理二志望者にはかなり役に立ちます。これを冬休みまでずっとやりました。			*センター試験の過去問を『センター試験過去問研究 数学 I A・II B』(教学社)(いわゆる赤本)で解いていました。方が一を想定して本番より20分時間を短縮して解いていました。	*『2017年度用 鉄緑会東大数学問題集』(角川学芸出版)に載っている過去問10年分と参考問題を解いていました。目標を100点超えに設定して解いていました。	*数をたくさんこなすより、1問1問をしっかりとこなすことが重要です。なるべく曖昧な理解になっているものを無くしましょう。また定理などを単に暗記することは無意味なので、その定理を使う問題をしっかりとこなすようにしましょう。また証明の書き方も解答を見るときにきちんと確認しましょう。	*数学オリンピック参加(予選突破止まり、本戦はダメでした)
理二 102 (80)	*『赤チャート』(数研出版)で苦手な分野のみポイントで演習しました。	*『大学への数学 1対1対応の演習』(東京出版)を使い、全範囲の基礎的な問題の演習を積みました。	*『やさしい理系数学』(河合出版)で演習しました。 *『大学への数学増版 4・5月号』(数研出版)で分野別に演習しました。	*『東大の理系数学25か年』(教学社)を分野別に解きました。これも繰り返し解き直しました。		*センター試験の過去問を15年分、時間を計りながら解きました。	*冬休みまでと同様、ノートで解き直しました。 *過去問を7年分と東大本番レベル模試の過去問を解きました。	*解けなかった問題は後で必ず解き直しましょう。解説を読み、自分はどこが分からなくて解けなかったのかをきちんと理解することが大切です。	
理二 108 (100)	*学校の勉強のみでした。		*『大学への数学 1対1対応の演習』(東京出版)の I A II B III をすべてこなしました。	*学校の勉強に加え、東大模試の過去問2年分と東大の過去問2年分を解きました。	*センター試験の世界史を詰め込んでいたので、全く数学には手を付けなかったです。	*センター試験の数学を5年分解きました。過去問はやはり大事です。	*『東大の理系数学25か年』(教学社)を用いて20年分過去問を解きました。最後の1ヶ月で驚くほど数学は伸びました。	*近年の数学の易化に伴い、基礎力も重要だと思います。「難しい問題をたくさん」ではなく、「易しい問題を確実に」を目指しましょう。	
理二 102 (85)				*過去問の演習を始めたものの歯が立たず、基本に戻るべきかと『青チャート』(数研出版)や『大学への数学 1対1対応の演習』(東京出版)に戻って見たが、あまり役に立ちませんでした。結局できもしない過去問に取り組みしていました。	*『頻出レベル理系数学 I・A・II・B・III』(マゼマ出版社)、『頻出レベル文系・理系数学 I・A・II・B』(マゼマ出版社)を解きました。数学のスランプから抜け出すべくあえて簡単な参考書を買って解きました。	*センター試験の過去問題集を使い演習しました。当日問題用紙に書き込める量を調整するためにB5にプリントアウトして解くことをお勧めします。	*『鉄緑会 東大数学問題集』(角川学芸出版)を使いました。解けなかった問題には付箋をつけて何度も解き直しました。	*解き散らかしてたくさん問題をこなしたところで力にはならないので、しっかりと復習する習慣をつけましょう。復習をいつい忘れてしまう人は、復習ノートを作っていつまでに何の復習をやるべきか書いておきましょう。	
理二 104 (105)	*学校の授業で扱う問題を解いていました。	*長岡恭史先生のテストゼミを解いていました。	*長岡恭史先生の授業を中心に微積分を完成させるようにしました。また、『大学への数学 新数学演習』(東京出版)を用いて他分野の演習量を増やしました。	*学校の授業のみで済ませていましたが、時々東大の過去問に触れるようになりました。	*長岡恭史先生のテストゼミで演習しました。東大の過去問や東大模試の過去問題集を解きました。	*他の科目に時間を費やしていたため、数学にはあまり時間を割いていませんでした。	*東大の過去問や東大本番レベル模試の過去問を、本番と同じ150分で時間を計りながら解いていました。	*演習を行うと同時に、自分の苦手な分野を抽出して、それを潰していきます。	
理二 74 (60)		*『1対1対応の演習 数学 I』『1対1対応の演習 数学 A』『1対1対応の演習 数学 II』『1対1対応の演習 数学 B』(いずれも東京出版)を高2の終わりから始め、典型的な問題がすらすら解けるように繰り返しました。	*『数学Ⅲ 標準問題精講』(旺文社)を得点源にしたい分野に絞って何回か解きました。	*『東大の理系数学25か年』(教学社)得意分野から解き始め、難易度A・Bを中心に解きました。	*『東大の理系数学25か年』(教学社)をセンター試験まで一周目を終えることを目標に解き進めましたが、時間をかけすぎてあまり進みませんでした。	*『東大の理系数学25か年』(教学社)を1日1問ずつでも必ずやるようにしました。	*『東大の理系数学25か年』(教学社)を何周もして、得意分野と難易度A・Bの問題は同じものが出たら必ず解けるという自信を付けました。	*過去問を多く解くとよく使う考え方が分かってくるのでオススメです。	
理三 106 (105)	*数学オリンピックの勉強をしていました。『獲得金メダル』(朝倉書店)やIMOのShortlisted Problemsを解きました。 *東大の過去問を解いたり、東大模試の過去問を解いたりしました。	*あまり数学は触れていませんでした。	*東大模試の過去問の演習をしました。 *数学甲子園に向けた作問をしていました。	*『入試数学の掌握』(エール出版)を数学の問題の体系的な理解のために活用しました。	*あまり数学は触れていませんでした。	*あまり数学は触れていませんでした。	*残しておいた過去問(2010年-2016年)で演習しました。	*問題の体系的な理解(どういうジャンルか、どういう思考過程を踏まべできるのか)が重要です。 *早めに基礎が出来たのは良かったです。	*日本数学オリンピック銅賞

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント	特記事項
理三 120 (120)	*4月～12月まで塾で週に1回150分のセットで演習していました(この頃は90～100点を目標にやっていた)。		*基礎を復習しました(問題を見てすぐに方針を立てられるようにする)。使用した教材は『大学への数学 新数学演習』(東京出版)等です。	*10月の東大本番レベル模試で失敗し、「3問をまず取りに行く」戦略に切り替えました。点数は80～120点で安定するようになっていきました。  *過去問を『鉄緑会 東大数学問題集』(角川学芸出版)を用いて解き始めました(9～12月は1980-2000年、冬休み中に2001年～2006年を解きました)		*センター試験対策はしませんでした。 *2日おきくらいに150分の演習をしました(『ハイレベル理系数学』(河合出版)から6問選抜)。	*センター試験後、過去問10年分解きました。 *過去問終了後は東大模試の過去問を解きました。 *時間配分を強く意識して演習しました。(まず、6問全てに目を通し、易しそうな間から始める。10分経過時点で、4完→見直してから残り2問3完→残り3問のうち易しそうな1問をやる～2完→残りの4問のうち易しそうな間を見つける)	*6問中、まず3問を確実に押さえましょう(必ず3問は易しいです)。そうすれば、今年の入試ような易しいセットでない限り、ビハインドになる事は無いと思います。	*点に波があるよりも、毎回コンスタントに80点取れる人の方が強いです。
理三 98 (94)	*『大学への数学 1対1対応の演習』(東京出版)を利用して分野別の対策を進めました。 *5月中旬に数Ⅲの最後まで一通り勉強し終えました。	*微積分が弱点分野だったので『東工大の数学 15か年』(教学社)から微積分の問題を選んで演習しました。  *学校の授業の予復習も行いました。	*過去問に取り組み始めました。苦手だと思ふ分野を見つけ次第、『1対1対応の演習』(東京出版)に戻って確認することをくり返しました。	*過去問を週末に1年分やるようにしました。 *10月は防衛医科大学校の過去問をやりました。 *学校の授業の予復習も行いました。 *整数が苦手だったため、『マスターオブ整数』(東京出版)をやりました。	*過去問を進めました。年度ずつ6問まとめて150分で解きました。	*センター試験の数学を50分で見直しを含めて終えられるように訓練しました(数Ⅲにほぼ触れられなかったため、センターボケがひどかったです…。二次試験対策も続けておいた方が良かったです)。	*まだ終わっていない過去問を解きました。 *終わり次第、過去問の間違った問題のみ2周目を解きました。 *『マスターオブ整数』(東京出版)を見直しました。 *東大模試の過去問題集を最後にやりました。	*基礎を固めることと苦手分野を無くすることが重要だと思います。	
理三 104 (105)	*『大学への数学』(東京出版)の学力コンテストに参加していました。高2までは単元別の学習になることが多いので、単元別ではない学力コンテストを定期的に解いていたことは高3での学習にスムーズにつながったと思います。	*他教科に力を入れていたので、参考書などを用いた学習はあまりしていません。学力コンテストにはひきつづき参加していました。	*夏の東大模試に備えて、6問150分の演習をすることが多かったです。	*演習中心でした。忘れていた単元がないかの確認のため、一通り復習しました。	*過去問を時間通りに解きました。弱いと感じた単元は他大学(東京工業大学など)の過去問を数題解いたりしました。	*左に同じです。	*過去問を解いていました。	*私の場合は数学は好きだったので、高2までに力を入れて勉強していましたが、このおかげで高3では他教科に力を入れることができました。	
理三 120 (120)		*6問150分のテスト形式でやると良いと思います。ただしこの時期はまだ時間を気にしすぎる必要はないと思います。	*『大学への数学 新数学演習』(東京出版)、『ハイレベル理系数学』(河合出版)の復習をしていました。	*東大模試の過去問をやっていました。140分ぐらいに短縮してやるとなお良いと思います。  *過去問を『東大数学問題集』(角川学芸出版)を用いて解き始める(9～12月は1980-2000、冬休み中に～2006を解いた)		*数学はセンターボケが怖いので、センター試験対策に傾注しすぎるのは厳禁だと思い、確認がてら1セット分のみセンター数学(IA II B)の過去問を解きました。	*新たな問題に取り組む事はあまりせず、これまでやった問題の解法を確認しました。	*東大数学は水物とはいえ、解法パターン暗記で点は必ず取れるので、これを怠らないようにしましょう。自分がミスしやすい所を知っておくのも重要です。	

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント	特記事項
文一 42 (40)	*『基礎からの数学Ⅰ+A』『基礎からの数学Ⅱ+B』(数研出版)、『大学への数学 1対1対応の演習』(東京出版)、『文系数学の良問プラチカ』(河合出版)、『大学への数学 新数学スタンダード演習』(東京出版)以上の5つの問題集を高2までに終わらせました。全て解けるようになるまで繰り返し取り組みました。	*学校の授業のみです。	*『文系数学の良問プラチカ』(河合出版)の2周目をやりました。塾の講習を受講しました。この時期になると1問1問じっくり考えて取り組むようになりました。	*学校の授業のみです。	*『大学への数学 1対1対応の演習』(東京出版)を再びやりました。基礎を確認するのに役立ちました。二次試験の過去問を少し解きました。解けなかった問題については、自分の考えが至らなかった部分をメモに残しました。	*苦手な単元のみセンター試験の過去問をやりました。	*残っていた二次試験の過去問をセンター試験後2週間て仕上げましたが、難易度の極端に高い問題は解きませんでした。直前2週間は地歴に時間をとられ数学はやりませんでした。感覚が鈍るので毎日やることをおすすめします。	*高1、高2のうちほどに基礎を固めて下さい。私は早くから難しい問題を解きすぎ、解答を暗記してしまったので、初見の問題を自分の頭で考えて解くことが苦手になってしまいました。二次試験レベルの問題(『文系数学の良問プラチカ』(河合出版)等)は夏休み頃から始めても十分です。あと、模試では計算ミスに気を付けて下さい。多少時間をかけてでもミスなく解く方が大切です。	
文一 70	*特別なことは特にしませんでした。				*特別なことは特にしませんでした。				
文一 80 (75)			*高2までにほぼ完成していたので、週に5題程度、塾の問題集を用いて演習していました。一年を通して大体このペースでした。 *過去問は年度別には行いませんでした。					*問題系統ごとの「あるある」を、「あるある」としての文章化・体に染み込ませる演習、という2つのアプローチを体得することです。	
文一 41 (55)	*数学が苦手だったので、『青チャート』(数研出版)のⅠAⅡBを用いて定石の習得をはかりました。	*塾で、予習で事前に与えられた教材の問題に取り組み、授業でテストゼミを解いて解説を受け次週までに復習するというサイクルを繰り返していました。	*塾の夏期講習、一学期の塾の授業の復習をしました。 *夏の東大模試の復習をしました。1週間ほどしか間がなく、立てつづけに受ける方も多いと思いますが、2回目の前に1回目の復習をすることでより有意義に模試を使えると思います。	*塾の教材の予習復習をしていました。	*センター試験の数学の形式が苦手だったので、過去問とマーク模試の過去問を使って、毎日大問1つは解くようにしていました。 *2学期の塾の授業の復習をしていました。	*ⅠAⅡBの問題を交互に毎日1年分ずつ解いていました。センター試験の過去問は20年分くらい取り組んだと思います。	*新しい問題は東大の過去問7年分くらいにとどめて、主に塾で解いた問題の復習をしていました。	*たくさんの教材に手をつけるよりも数冊の参考書に絞って完璧にする方が効果的だと思います。	
文一 58	*学校行事が忙しく、数学には全く手が回せませんでした。	*塾で数学の各分野の解法を知ることで手一杯でした。 *主に塾の授業の予習・復習をしていました。参考書は特に利用していませんでした。	*塾の講習に参加した他、塾のテキストの問題を1周し、問題の演習量を増やしました。 *少しずつ東大の過去問に触れ始めました。	*東大の過去問の古い年度の問題を解き進めました。一橋大の過去問にも手をつけました。 *塾でのテスト演習に積極的に参加しました。	*学習法は9～12月と同様でしたが、センター試験の他科目の対策に忙しく、数学にはあまり手が付けられませんでした。	*センターボケが怖く、一度解いた東大や一橋大の過去問、塾のテストゼミの問題を見返しました。	*参考書は特に使わず、参加したテストゼミの復習を始めとして、今まで解いた問題の類題が全て解けるようにと、復習に終始しました。	*ほとんど参考書を使わずとも入試対策は可能です。 *直前期に演習を怠ると本番で計算ミスをしてしまいがちなので、計算・演算する習慣をつけるといいと思います。	
文一 23 (25)			*塾のテキスト問題集(教科書レベルから標準レベルの定石が網羅されているもの)を時間をかけて1周し、間違えた問題を解き直しました。	*塾のテキストの問題を総復習した後、過去問演習に入りました。年度ごとに解き、解説は『東大数学で1点でも多く取る方法 文系編』(東京出版)を参照しました。	*過去問を2、3年分解きました。センター数学が苦手だったので、そちらの過去問(ⅠAは予想問題)も始めました。	*センターⅠA・ⅡBを交互に1日1年分解きました。東大の過去問演習はお正月からはお休みしました。	*過去問の残っていたものをやりきった後、東進の東大本番レベル模試の過去問を解きました。またそれと同時に間違えた問題の見直しもし、最後の5日では解いた過去問の要点を復習しました。	*数学が苦手な人は基本的に定石を身に付けることが重要だと思います。	夏の東大模試で10点を取る程苦手でした。
文二 52 (55)	*1周目は基本例題のみを解き、解答の記述を真似るような意識で、式だけでなく文章もセットで覚えました。 *2周目は基本例題を式だけ書いて手短かに書き、下の問題演習を解きました。ここで解けなかった問題には印をつけておきました。 *3周目は印のついていない問題を優先し、もう一度基本例題の確認をしました。		*『文系数学のプラチカⅠAⅡB』(河合出版)で、二次試験に頻出の分野を中心に解き、ベクトルの章はとばしました。	*10年分は本番と同じセットで、それ以前は自分で4題ずつセットにして120分で解いていました。 *12月以降は1回100分で時間配分を意識し始めました。 *直前期は典型的な問題(特に確率や図形と方程式)の問題を5分ほど眺め、解法を思い浮かべてから解答を読み直しました。		*『大学入試センター試験実戦問題集数学ⅠA・ⅡB』(駿台文庫)(青本)7回分の模擬試験を時間を計ってやりました。	東大特進のテストゼミの復習や東大本番レベル模試の過去問を解いていました。	基礎が固まってきたら、4問中何問完答を目指すか、ということが重要です。目安としては2完ですが、得意な人は周りと差をつけるチャンスなので、3完、4完を目指してもいいでしょう。目標の完答数が定まってきたら、まず時間配分(何分解けなかったら次の問題に進むか等)を意識し、1題あたりにつけられる時間に合わせて3～4題セットで解く練習をしましょう。まだ慣れていないうちは3題100分、4題120分等がおすすめです。	
	*『1対1対応の演習ⅠAⅡB』(数研出版)					『東大の文系数学25ヵ年』(教学社)			

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント	特記事項
文二 48 (45)	*学校で使用していた『数学Ⅰ・Ⅱ・A・B入試問題集文系2016年版』を家で解くだけでした。		*『東大の文系数学25か年』(教学社)を類出の単元からピックアップして、1日に2題くらいのペースで演習しました。		*センター試験が時間内に終わるか不安だったので、追試も含め20年分をほぼ毎日やりました。 *また、東大の過去問を大問ごとに解きました。		*駿台・河合塾のセンター試験実戦問題集を利用して毎日1セットずつ行いました。	*東大本番レベル模試の過去問や駿台の入試実戦問題集を利用して、4問の時間配分の練習をしました。	*数学は、着手しやすい問題の見極めや、頻出分野の解くポイントを過去問研究を通して知ることが大切です。
文二 68 (70)	*『大学への数学 1対1対応の演習』のⅠA、ⅡBを中心にやりました。各セッション2～3周くらいやりました。	*『文系数学の良問プラチカ』(河合出版)を夏休みも含めて2～3周しました。確率に苦手意識を感じ、『ハッと目覚める確率』(東京出版)に取り組みました。	*夏休み前と同じです。	*二次試験の過去問を10年分やりました。	*二次試験の過去問を『東大数学で1点でも多くとる方法 文系編』(東京出版)で15年分やりました。	*センター試験の過去問を直前期だけの期間で5年分やりました。	*二次試験の過去問を『東大数学で1点でも多くとる方法 文系編』(東京出版)で15年分やりました。	*苦手分野の量をこなして克服するのがポイントです。	
文三 50 (60)	*塾の教材をやっていました。この時期は基礎固めが大切です。		*社会の学習が忙しく、週1の塾以外では学習時間を取れていませんでした。	*過去問10年分をやって東大入試の傾向を掴みました。	*センター試験の過去問を2日に1回解きました。課程が変わる前は量が少ないので、ⅠA・ⅡB共に30～40分で解くことを目標にしていました。		*過去問を新たに5年分解き、今まで解いてきた過去問を分析して本番に備えました。	*英語、数学は高2までに基礎を固めてしまうことが大切です。	
文三 54 (55)	*センターの過去問を25年前のものから解き基礎を身につけました。	*二次過去問を解き始めました(東進の過去問演習講座)。	*過去問演習を継続しました。	*過去問演習10年分を2周しました。 *『文系数学の良問プラチカ』(河合出版)を1周しました。	*『文系数学の良問プラチカ』(河合出版):自信のない単元を中心に繰り返し解いていきました。 *センター過去問(東進過去問データベース):60分というスピードを頭の中に叩き込むために、時間を必ず計測することを意識しました。	*プラチカと二次過去問とセンターの割合を1:0.5:8.5ほどにしました。 *センターは毎日1年分を朝に行い、時間短縮を意識しました。その後はつまった問題をピックアップし繰り返し復習しました。	*東進の東大本番レベル模試の過去問を週1回時間割を設定して行いました。 *過去問10年分の解き直しを進めると共に、25か年(赤本)を使用して新しい問題への思考力をつけました。	*私にとって苦手科目であったため、とにかく基礎固めを重視しました。解き終わった後、解説をみた後に自分のプロセスを分析し、問題に対するパターンを身につけるのがよいです。	



科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント	特記事項
理二 (35)	*漢文はあまり触れていませんでした。	*時々句法を確認していました。	*三羽先生の授業を受け、テキスト付録にある重要語句などを読んでいました。	*この頃から東大の過去問を解き始めました。 *各社の模試の過去問を解き始めました。	*センター試験の過去問のみを解いていました。		*センターほけを直すために、残っていた東大の過去問を解いていました。 *古文・漢文は模試過去問も用いて演習量を確保しました。	*理系の人は、国語に時間を割きすぎないようにしましょう。	
	*現代文は林修先生の授業で対策していました。 夏休み頃には、記述力に目処が立ちました。								
理二 (43)	*古文・漢文に関しては殆ど勉強せず、現代文は林修先生の授業の予復習のみでした。	*古文・漢文は点が上がりやすいと考え、『マドンナ古文単語230』(学研)を覚え、『漢文学習必携』(京都書房)を暇がある時には必ず読んでいました。	*現代文に関しては林先生の講義を、古文・漢文に関しては栗原隆先生の講義を受けていました。	*国語はいったんお休みしました。というのも理科で90点越えを狙っていたので、国語に割く時間があまりなかったためです。	*センター試験の過去問を5年分解きました。	*センター試験の過去問を7年分解きました。	*古文・漢文に時間を割くのは無駄と考え、スキマ時間でのみ前述の2冊を復習していました。現代文は林先生の講義を受けていました。	*高2の終わりまでに古典を固めておくと、理系の人の場合、圧倒的な強みになります。頑張ってください。	
理二 (45)			*『漢文道場』(Z会出版)・『古文単語315』(桐原書店)をもう直前まで古漢に触れないつもりで知識を覚ええました。		*『漢文道場』(Z会出版)・『古文単語315』(桐原書店)で知識を覚えなおしました。			*理系の人はあまり時間を割かず効率よく勉強しましょう。	
理三 (50)	*学校の授業の復習をしました。 *センター模試をたまに受けました。		*林修先生の授業を受けました。		*古文単語を覚え直しました。		*二次試験の過去問を約10セット解いて復習しました。 *夏に受けた林先生の授業を復習しました。	*現代文は文の論理構造をつかむことで復習しました。 *古文・漢文は単語力+文法力+慣れです *冬にたくさん解くだけで力がつくので侮らない方が良いと思います。	
		*ひたすら国語はさぼりました(真似しないでください)。							
理三 (35)	*古文単語・漢文句形を意識的に覚えはじめました。	*古文・漢文は『得点奪取』シリーズ(河合出版)で記述問題に慣れました。	*夏休みは、現代文の東大特進の講座を受けただけで、理科を主にやっていました。	*古典は『東大古典問題集』(角川学芸出版)を用いて勉強しました。付録もよく活用していました。	*センターの過去問を始めました。 *古文単語・漢文句形を再確認しました。	*センターの過去問を25年分演習しました。	*10年分の過去問を復習しました。 *古文単語・漢文句形の再確認をしました。古文単語は『ベストセレクション325』(尚文出版)、漢文句形は『漢文句形とキーワード』(Z会出版)を主に使っていました。	*伸びにくい教科である事は確かですが、努力すれば結果はついてきます。しかし、理科が未完成なら、そちらを優先すべきでしょう。	*僕はセンター前に国語を徹底してやっただけにもかかわらず、本番で大失敗してしまい、かなり落ち込みました。しかし、これが二次試験対策に集中できた一つの要因だったと思います。
		*現代文は1年を通して林修先生の授業とその予復習をしていました(10年分の過去問を消費してくれます)。							
理三 (44)				*10月から古漢の知識を詰め始めました。	*センター国語を2日に1回ぐらいの頻度で解きました。 *現代文は答えを論理的に導けるかを時間をかけて確認しました。	*センター国語をほぼ毎日解いていました。	*5年分ほど現代文と漢文をやりました。古文はあまりやりませんでした。	*理系では国語の優先度は低いです。現代文の授業の復習、古典の知識取得など最低限のことはやりましょう。	
		*東大特進で現代文の授業を受けました。							
理三 (45)	*学校の授業の他に、特別なことは何もしていません。	*林修先生の授業をt-podで受講しました(その後も何度か受講しました)。	*模試に向けて古文単語や漢文の句形を暗記しました。	*古文単語・漢文句形の暗記に加えて、古文の文法の復習も始めました。	*1年分だけ過去問を解きました。	*センター試験の過去問を時間を計って解いていました。古文・漢文の知識事項は合間をぬって復習していました。	*過去問を解きました。『鉄緑会東大古典問題集』(角川学芸出版)で復習をし、現代文の林修先生の授業を復習しました。	*直前期ではあったものの、国語に力を入れて勉強した時期があったことはよかったのではないかと思います。	
理三 (35)	*他教科に重点を置いたため、殆ど何もせず、林修先生の講座の予復習だけしっかりやっていました。			*演習不足と感じたため、『得点奪取』シリーズ(河合出版)をやりました。自分で時間を決めてテスト形式でやりました。		*センターの過去問を25年分演習し、時間配分に慣れました。河合のセンター模試の過去問も解きました。75分ぐらいでやっておくいいと思います。	*現代文の解法を確認していました。 *古文単語・漢文句形の再確認をしました。	*古漢はやればすぐに伸びます。単語は覚えているもの勝ち、やらなければ勿体ない!ぐらゐの気持ちで覚えましょう。現代文は林先生の授業の予復習で必要十分だと思います。	
		*『重要古文単語 325』(中経出版)で古文単語を覚ええました。目次が見やすくオススメです。							

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント	特記事項
文一 70 (55)	*高1のときに『ステップアップノート30 古典文法基礎ドリル』『ステップアップノート10 漢文句形ドリルと演習』(河合出版)を使用しました。	*古文漢文は単語・重要語句を忘れないように時々見っていました。(学校の教材)	*古漢は東大特進の授業をt-PODで受けていました。	*古文漢文は引き続き単語・重要語句を忘れないように時々見っていました。(学校の教材)	*現代文は林修先生のライブ授業でセンター対策の講座と二次対策の講座の両方を受けました。	*現代文はセンター過去問を1日1年分ずつ解きました。 *古漢共に1日1年分ずつセンター過去問を解きました。	*現代文は何もしませんでした。 *古漢は過去問を10年分ほど、1日1年分ずつ解きました。	*古文漢文は単語・文法を高1のうちに固めておく得点源となり、高3になってから楽です。現代文は林修先生の授業がおすすめです。予習には4-5時間程かけても良いと思うので、自分の解答をしっかりと作成してから受講してください。	
		*高2の春から東大特進コースの林修先生のライブ授業を受けていました。現代文はこの授業で対策しました。			*古文は受験前日まで毎日単語帳をやりました。『マドンナ古文単語230』(学研マーケティング)				
文一 68			*『漢文早覚え速答法』(学研マーケティング)を一周して漢文の基礎事項を確認しました。 *『読んで見て覚える重要古文単語315』(桐原書店)を適宜参照していました。	*特別なことはしませんでした。	*『漢文道場』(古文上達読解と演習56)(Z会出版)を二週間で一周しました。	*『大学入試過去問レビュー 国語』(河合出版)を二日に一回一年分を解きました。	*『25カ年』(教学社)を一週間で読みました。	*国語はとにかく量をこなすことが重要です。量が自信につながります。	
	*特別なことはしませんでした。								
文一 65 (55)			*高2までに句法と文法はそれなりに頭に入っており、秋まではとくに対策しませんでした。		*漆原慎太郎の参考書と『得点奪取古文 記述対策』『得点奪取漢文 記述対策』(河合出版)をやりました。	*京都書房で7回分の問題集を買いました。	*過去問を5年分くらい解きました。	*他教科とのバランスを意識しました。	
				*現代文に関しては林修先生の授業を受けていました。					
文一 72 (50)	*『古文上達』(Z会出版)で文法を仕上げました。	*学校で古文の文章にふれる程度でした。				*古文漢文に関しては特にしませんでした。	*センター試験の過去問を合計10年分程度取り組みました。 *センター試験に向けて『古文単語FORMULA600』(東進ブックス)に集中的に取り組みました。	*現代文は東大特進の授業の復習をしました。 *古文・漢文は5年程度過去問に取り組みました。	*時間をかければ伸びるタイプの教科ではないので、あまり時間をかけないことが得策だと思います。 *古漢は文法事項を遅くとも高3の5月までに習得するべきだと思います。
	*漢文はセンター試験の過去問と東大模試の過去問を1回分ずつ毎週解いています。		*古文・漢文は東大模試の復習をしました。						
文一 63	*学校行事が忙しかったため、ほぼ手つかずでした。 *林修先生の授業は受けていました。	*古文は単語帳の通読に加え、東大特進の授業を受けていました。 *漢文は学校の授業の復習のみでした。	*漢文は東大特進の漢文テキストが知識の補填に良かったので、通読しました。 *古文は『ミラクル古文単語396』(旺文社)を通読しました。	*古文、漢文は『鉄緑会東大古典問題集』(角川学芸出版)の付録で別角度から知識を蓄えました。 *過去問演習を進めました。	*古典は過去問演習の復習とも合わせて、知識のチェックを行いました。		*二次試験の過去問演習をしました。 *東大特進の漢文テキストや古文単語帳による知識の最終チェックを行いました。	*国語はセンター試験、二次試験共に慣れの要素が大きいので演習が重要です。 *今年のように2次で古文だけ極端に難しいということもあるので、どの分野からでも得点できるよう満遍なく学習すべきだと思います。 *古典は学校の授業をきちんと聞きましょう。	
		*林修先生の講座を受講しその復習をしていました。			*センター試験の過去問をひたすら解き続けました。				
文一 71 (60)	*『ステップアップノート10 漢文句形ドリルと演習』(河合出版)と『ステップアップノート30 古典文法基礎ドリル』(河合出版)をやり、文法・句形を学びました。	*古漢は学校の授業やワークをメインにし、ときどきセンター試験の過去問を解きました。	*古文が苦手だと感じたので、『マーク式基礎問題集 古文』(河合出版)をやりました。 *漢文は『漢文』(河合出版)を始めました。	*古文単語を集中的に覚えました。(『読んで見て覚える重要古文単語315』(桐原書店)を使用) *『ライジング古文』(桐原書店)を解きましたが、私には難しすぎました。 *模試の復習をし、過去問を2年ほど解きました。	*二次試験の過去問を2年ほど解きました。『鉄緑会東大古文問題集』(角川学芸出版)を用いました。クリスマス頃からは、センター試験の過去問を解きました。点数が安定しなかったため、とりあえずたくさん解きました。	*センター試験の過去問を解きました。	*古文は『漆原慎太郎の古文・記述問題が面白いほどとれるスペシャルレクチャー』(中経出版)を、漢文は『最強の漢文』(Z会出版)を使用し、記述対策をしました。 *栗原隆先生のテキストを復習しました。		
		*現代文は林修先生の授業だけでした。							

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント	特記事項
文二 60 (60)			*漢字を一通りやりました (テキストは学校で配付されたもの)。  *現代文は主に林修先生の授業の予習・復習をしていました。復習は答案が返却されてから解答とプリントを読み直していました。 *『古文上達』(Z会出版)を一週しました。 *漢文は『早覚え速答法』(学研マーケティング)を一週しました。			*現代文は10回分、古漢は25回分センターの過去問をやりました。  *古文は単語帳『読んで見て覚える古文単語315』(桐原書店)を見直していました。 *漢文は『句形とキーワード』(Z会)を買って読みました。	*林先生の解答プリントを参考に、10年分の過去問の解き直しをしました。  *『東大の古典25か年』(教学社)を10年分ほど解きました。	*国語はセンター試験で失点しやすいので、特に古漢で点を落とさないようにしっかりと対策をしましょう。	
文二 75 (60)		*古典は学校の授業に合わせて学習しました。	*現代文の対策は林修先生の東大特進の授業で行いました。 *古典は『入試精選問題集』(河合出版)を進めました。	*古文・漢文の二次試験の過去問は10月ごろから形式に慣れるために解き始めました。	*センターの過去問を少しずつはじめ、時間配分を決めました。	*センターの古文・漢文を短い時間で解けるようにトレーニングしました。 *古典は過去問20年分をやりました。	*東大特進で高3の前期に扱った年度の現代文を解き直して林先生のプリントでポイントを確認しました。 *『東大の古典25か年』(教学社)で直前まで古い過去問を解き進めました。	*古文は助動詞をマスターすれば、直前は単語の暗記だけで済みます。単語帳を繰り返しやりましょう。 *古典は試験でいかに短い時間で解き終わらせるかが大切です。現代文に時間がかけられるように読解スピードを上げましょう。	
文二 49 (55)		*現代文: 林修先生のテキストの予習、復習をしていました。 *古文: 『マドンナ古文単語230』(学研マーケティング)で単語を、『基礎からのジャンプアップノート古典文法演習ドリル』(旺文社)で文法をやっていました。 *漢文: 学校の授業が中心でした。	*現代文: 以前と同様 *古文: 以前と同様 *漢文: 『漢文・入試精選問題集9』(河合出版)をやっていました。	*現代文: 以前と同様 *古文: 『読み解き古文単語』(Z会出版)をやっていました。 *漢文: 以前と同様	*現代文: 以前と同様 *古文、漢文: 二次試験の過去問10年分をやっていました。	*現代文、古文、漢文: センター過去問10年分をやりました。	*古文: 『読み解き古文単語』(Z会出版)をやっていました。 *現代文、漢文: センター過去問の復習をしていました。	*古文・漢文を中心にやりましょう。	
文三 58 (60)		*東進衛星予備校で「京大対策国語」を受講していました。	*『古文上達 基礎編 読解と演習45』(Z会)をやりました。	*夏の東大模試で古典がかなり悪かったので、『得点奪取古文・漢文』(河合出版)をやりました。 *過去問を10年分解きました。古典の過去問は『東大古典問題集』(角川学芸出版)、現代文の過去問は林修先生の解説を参照しました。	*センター試験の過去問を解き、古典の知識を確認しました。		*『東大古典問題集』(角川学芸出版)巻末の「古文単語集成」を覚え込み、過去問を数年分確認しました。	*現代文は林修先生の授業がおすすです。古典も知識を入れたら、あまり時間を割きすぎないようにしてください。	*7月まで京大志望でした。
文三 69 (75)		*現代文: 東大特進の受講、復習の他には対策していませんでした。 *古文: 『古文単語FORMULA600』(東進ブックス)を利用して夏休み前までに習得を目指しました。 *漢文: 特に対策しませんでした。	*東大特進の古文・漢文の巻末の知識編を利用して知識補充をしました。 *センター試験の過去問を利用し、80文字の解答を自分で作成しました。 *二次試験の過去問を解き始めました(古文・漢文)。	*古文・漢文は音読することで二次試験の過去問を解き進め、復習を行いました。	*学習割合は、二次試験: センター試験を8:2ほどにしました。	*評論、小説、古文、漢文のセットを作り、時間を計って解きました。 *自信の無い小説分野は過去問(赤本)を使って20年分程度解きました。	*東大特進のテキストの総復習をしました。 *古文、漢文は『東大の古典25か年』(教学社)を解き進めました。	*現代文については、林修先生の授業の徹底的な復習、再現が最重要です。 *古文、漢文は夏までに基本用語や文法を整理し、あとは多くの問題にあたってください。	

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント
理一 (40)			* 東進の「ハイレベル物理」のテキストを使って復習をしていました。					
理一 (30)								
理一 (45)								
理一 40 (40)								
理一 53 (45)								
理一 25 (30)								
理一 54 (55)								
理二 (30)								

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント
理三 52 (55)	*『難問題の系統とその解き方 物理』(ニュートンプレス)の例題を一通り解きました。 *『東大の物理25ヵ年』(教学社)を半分くらい解きました。				*抜けた知識を『新・物理入門』(駿台文庫)を読んで補いました。 *過去問を解きました。	*センター試験対策でセンター試験の過去問を2、3セット解きました。	*これまで解いた問題の総復習をしました。 *残しておいた過去問(2010-2016)を演習しました。 *原子物理や交流等、手薄だった分野の演習をしました。	*本質をつかむことと慣れることが大切です。
		*東大模試の過去問や東大の過去問を演習しました。						
理三 52 (50)	*『難問題の系統とその解き方 物理』(ニュートンプレス)の例題全てを完成させました。原理から全てを導くことに集中しました。	*『難問題の系統とその解き方 物理』(ニュートンプレス)の演習を始めました。これは夏休み中に完成しました。初めは解けなくても、原理から考えれば解ける良問が多く、良い練習になります。	*苑田尚之先生の講義ノートを復習し、原理の完全理解に努めました。	*『東大の物理25ヵ年』(教学社)で過去問を開始しました。原理だけですらすら解けることを確認しました。	*模試の過去問を化学とセットでやり始めました。本番と同様の解答用紙でやりました。	*センター対策はしませんでした。全くやらないのは「センターばけ」の原因になると思ったので、数日に一回は化学と合わせて150分のセットをやっていました。	*『新・物理入門演習』(駿台文庫)で仕上げました。この問題集には、骨のある良問がたくさん載っています。総仕上げには最適な問題集だと思います。手書きの解答例を良く参考にしていました。	*原理からすべてを理解することが一番近道です。初めは大変に思えますが、苑田尚之先生に「一から教わったことで、原理を正しく理解することができました。」
理三 53 (57)			*『名問の森』(河合出版)を用いて既習分野の演習をしました(磁気・原子の分野はこの時点では全く習っていませんでした)。	*学校の授業の復習として『セミナー物理』(第一学習社)を演習しました。並行して『名問の森』(河合出版)を2周ほど繰り返し演習しました。 *10月の苑田尚之先生のテストゼミを受けて、基礎が定着していないことを自覚した為、それ以降は苑田先生の授業をt-PODで受講し、そのテキストを用いて演習しました。 *11月から過去問を解き始めました。	*苑田尚之先生の授業の受講とその復習をしました。 *センター試験の物理は1回解きました。	*センター試験の物理の直近2年分を演習しました。 *教科書に目を通して、細かい知識を押さえました。	*残っている過去問をやりました。11月から全部で直近10年の過去問を2周くり返しました。 *理解があやふやな点があれば、必ず苑田尚之先生のt-POD授業に戻って確認しました。	*基礎事項をしっかり習得し、導出も迷わず出来るぐらいに理解することが重要です。
	*学校の授業に合わせて、『セミナー物理』(第一学習社)で復習しました。力学分野のみ『物理 重要問題集』(数研出版)を用いて強化しました。							
理三 47 (45)	*『名問の森』(河合出版)を1通り解きました。	*『名問の森』(河合出版)が解き終わったのが、7月頭ぐらいでした。	*お盆など、時間のある時に『難問題の系統とその解き方 物理』(ニュートンプレス)を解いていました。	*『難問題の系統とその解き方 物理』(ニュートンプレス)に加えて、化学と合わせて150分の演習をすることもありました。	*『東大の物理25ヵ年』(教学社)で、過去問を大問ごとにバラバラに解きました。	*教科書で、細かい知識のものがいなかを確認しました。	*過去問を化学とあわせて150分セットで解き、苦手なところはすぐに復習するようにしていました。	*物理は高3スタート時には基礎も身につけていなかったため、まずはあせらず基本的な問題を解くようにしました。
理三 53 (55)		*『新・物理入門問題演習』(駿台文庫)をやり始めました。本質をついた問題が多く含まれており、一問一問丁寧にやると良いと思います。				*センター試験対策は国語や社会に時間を割くべきだと思い、特にしませんでした。	*これまでやった重要な問題のポイントを確認し、必要に応じてノートにまとめました。 *苑田尚之先生の直前テストゼミは奥の深い良問が多いです。	*物理は化学と違って問題を解きまくるよりも、本質(根本的原理)を理解することに努めるべし! その際、苑田尚之先生の授業はこの上なく役にたります。
	*『難問題の系統とその解き方 物理』(ニュートンプレス)をコツコツと解いていました。良問が多く、本質理解にも最適です。		*東大模試の過去問を解いていました。時間を140分程度に短縮して解くのがおすすめ。					

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント	特記事項	
理一 (35)		*東進の「ハイレベル化学」のテキストを復習していました。	*「化学重要問題集」(数研出版)を使い、問題を解いては足りない知識をメモに書き留め、日にちを置いて復習しました。	*「東大の化学25ヵ年」(教学社)を解き進めました。		*センター試験の過去問を8年分ほど解き、知識の総ざらいをしました。	*東大本番レベル模試の過去問を物理と合わせて解きました。	*化学は知識を暗記しないことには始まらないので、気合を入れて早目に暗記してしまうことが大切だと思います。		
理一 (40)		*「ハイレベル化学」の理論化学(1講から7講まで)を一回ずつ受講しました。ただ丸暗記するのではなく、何故その結合をするかなど調べました。	*「ハイレベル化学」の有機化学を1講から7講まで受講しました。	*東大化学の前期集中講座と夏期集中講座、「ハイレベル化学」の理論化学と有機化学の残りを受講しました。	*東大化学の秋期特別講座、秋期集中講座を受講しました。 *「化学重要問題集」(数研出版)の苦手分野(中和の近似まで)を解きました。	*東大化学の冬期集中講座を受講しました。 *「化学の新研究」(三省堂)を確認しながら「東大の25ヵ年」(教学社)を2000年まで解きました。	*センター化学の過去問を10年分、時間をはかり見直しはせずにすぐに採点する、というやり方で解きました。	*直前テストゼミを受講しました。 *東大の過去問を2001年から、手が届いていない範囲は無いか確認しながら解きました。 *東大化学を1年分しっかり復習しました。	*物理との兼ね合いもあって過去問では時間が足りないかもしれませんが、時間を計り終えた後に、時間を気にせずに答えを見ずに解くことが大切だと思います。 *化学はある程度問題量をこなさないと点数は安定しないように思います。	
理一 (42)			*夏までに基礎力を固めるため、秋からの演習のための土台作りを目標としていました。	*演習を積んで計算力を養うために、『化学の新演習』(三省堂)に取り組みました。	*『化学の新演習』を続けつつ、『東大の化学25ヵ年』(教学社)に取り組み始めました。本番が近づいてきたので、物理とセットで時間を計って解いていました。	*センター形式に慣れるため、念のため2、3年分だけセンター過去問を解きました。	*「東大の化学25ヵ年」(教学社)に取り組みました。物理とセットで時間を計って解いていました。 *東大本番レベル模試の過去問で最後の調整をしました。本番よりも少し難しいので、ちょうどよかったです。その他東大模試の過去問も少し使いました。	*夏～秋の間に計算力を培い、多種多様な問題に触れておくことが最後に得点上がる事につながります。 *すぐに答えを見ることは避け、出来るだけ手を動かして頭で考えて演習することをお勧めします。		
理一 (40)		*学校の課題として、『化学重要問題集』(数研出版)の既習範囲(有機以外)の必須問題のみを解きました。解説はよく読みこむように心がけました。その後同じ問題をもう一周しました。	*学校の授業の復習と、『化学重要問題集』(数研出版)を用いた演習をしていました。	*「化学重要問題集」(数研出版)の既習範囲(脂肪族まで)の全ての問題を解きました。全部で80時間かかりました。	*夏休み前と同じ勉強法に加えて、『鉄緑会東大化学問題集 資料・問題篇/解答篇』(KADOKAWA)を用いて、2週間に1度過去問演習をしたり、模試の復習をしたりしていました。塾の授業も受講しました。	*センター対策と、模試の復習をしていました。	*センターの過去問演習に専念していました。	*2日に1回、過去問を年度ごとに解きました。自己採点に当たって、『鉄緑会東大化学問題集』(角川学芸出版)も利用しました。	*基本的な用語を体系的にきちんと覚えることが第一で、あとは問題の解説をしっかりと読むこと。化学は数理学のセンスが無くても努力次第で伸びるので、コツコツと取り組むのが大切です。	
理一 (50)						*「センター試験過去問研究化学」(教学社)でセンターの過去問を解いていました。時間は本番よりも30分短くしてやっていました。	*「2017年度用 鉄緑会東大化学問題集」(KADOKAWA)を用いて過去問を3年分(2013年度より前は2016年度に比べて易しすぎるから)を解きました。目標は物理と合わせて100点に設定していました。	*一つ一つの反応式や化合物の色を正確に覚えましょう。また酸塩基の反応や酸化還元反応は理屈もセットで覚えましょう。また化学は桁数の多い計算を要求されるので、計算ミスが減らすことを意識しましょう。また自分のやったミスを何か(ノートなど)に一度書いてまとめると良いです。そうすると変なミスで点を落とすことはなくなるはず(もちろんこれは他の科目でもやった方が良いです)。		
理一 (40)		*「化学の新演習」(三省堂)を夏休みが終わるまでに、理論分野は3周、有機は2周ほど進めました。				*教科書を使って知識分野の強化に努めました。	*直前テストゼミで最後の力試しをした後、教科書で知識の確認をし、模試の見直しをしました。	*知識のつめこみに追われて問題演習が不足することがないように、定期的に知識の見直しをするか、問題を解く過程で必要となる知識をその場で詰め込むようにするべきだと思います		
理二 (43)					*「新理系の化学問題100選」(駿台文庫)を1周しました。しかし問題が難しく、半分答えを見ながら解法と知識の確認をしていました。			*過去問を解いて、あやしいと思ったところを教科書に戻って確認するようにしていました。	*過去問を解いて、あやしいと思った暗記事項を『化学の新研究』(三省堂)で確認するようにしていました。	*理系科目といえども暗記事項が結構あるので、早め早めに覚えてしましましょう。細かい暗記の漏れは問題演習を通して覚えるので間に合います。

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント	特記事項
理二 (35)			*東大特進の授業で構造決定をたくさんやって慣れました。				*『センター試験化学』(教学社)を5日前から2年分追試を含めて解きました。 *『東大の化学25ヵ年』(教学社)を10セット解きました。 *東進の東大本番レベル模試の過去問を解きました。	*夏休み終了時に有機が終わっていないと後で辛いです。 *筆算が早く出来るようになるとう利得です。 *センターは量がたくさん仕掛けてあるので、甘くない方が良いです。	
	*『化学重要問題集』(数研出版)の基本問題を早く解けるようになりました。	*6月上旬から教科書で有機の学習を行いました。			*11月上旬から『東大の化学25ヵ年』(教学社)を理論、無機、有機の順番で分野別に解きました。				
理二 (40)	*東進衛星予備校で「ハイレベル化学」を受講しました。 *『化学重要問題集』(数研出版)を解いていました。	*東大特進の授業を受けました。 *『化学重要問題集』(数研出版)を終わらせ、『化学の新演習』(三省堂)を解いていました。	*東大特進の復習をすくと共に、『化学の新演習』(三省堂)を解いていました。	*この頃から東大過去問を生物と共に150分で解き始めました。 *東大特進の復習もしていました。		*『ハイレベル化学』のテキストを用いて知識の確認をしました。	*東大過去問や模試過去問を生物と共に150分で解いていました。 *東大特進の復習もしました。	*有機、無機は知識が物を言うので、早期に1周はしておきましょう。	
理二 50 (40)	*学校の勉強のみでした。	*『化学重要問題集』(数研出版)を1周しました。	*『化学重要問題集』(数研出版)の2周目・3周目をしました。また間違えた問題の解き直しをしました。	*『化学重要問題集』(数研出版)で、間違えた問題のみ4周目をしました。『東大の化学25ヵ年』(教学社)で、有機を10題(大問)、無機を全て解きました。	*『東大の化学25ヵ年』(教学社)で理論の分野を解きました。	*センター試験の過去問を25年分解きました。	*過去問を7年分、東大本番レベル模試の過去問を生物と合わせて解きました。	*本格的な演習に入る前に、知識を完璧に頭に入れましょう。	
理二 38 (43)	*『化学重要問題集』(数研出版)のみを使っていました。2周しました。	*塾で配られていたプリントを片っ端から解いていました。夏の東大模試では化学が一番の得点源となりました。	*前半は模試の過去問を5年分解きましたが、後半はほとんど勉強しませんでした。	*無機・有機の知識の確認、理論での計算力を意識して『化学重要問題集』(数研出版)と東大の過去問を丁寧に解いていました。	*全く勉強しませんでした。	*全く勉強しませんでした。	*センター試験ボケを治すために理論の計算が煩わしい問題をたくさん解きました。	*高3までに固めておいたおかげで、めっちゃくちゃ楽しかったです。でも、やらないと多少は落ちるので、コンスタントに続けるのが大事だと思います。	
理二 44 (40)	*『エクセル化学総合版—化学基礎+化学』(実教出版)で忘れた知識を覚えなおしました。 *『化学重要問題集』(数研出版)を『化学の新研究』(三省堂)を読みながら分野ごとに解きました。 *『化学の新研究』(三省堂)を辞書代わりに使いました。理論の説明が充実していて、覚える助けになります。	*『化学重要問題集』(数研出版)を分野ごとに解きました。	*『化学重要問題集』(数研出版)の2周目を解きました。	*『化学重要問題集』(数研出版)は11月まで3周目を解いていました。3周終えるとう過去問を解く自信がつかれました。 *『東大の化学25ヵ年』(教学社)は『化学重要問題集』(数研出版)を終えてから、時間を計って解き始めました。			*『東大の化学25ヵ年』(教学社)を時間を計って取れる問題を探して解く練習をしました。	*暗記量が多いので問題を解きながら計画的に覚えておかないと後で辛いです。	
理三 53 (55)	*学校の授業の復習とセンター試験対策をした後に、『化学の新演習』(三省堂)を一通り解きました。	*『化学グランプリ』の予選の過去問を解いていました。	*『化学グランプリ』の本選の過去問を研究しました。 *東大模試の過去問を演習しました。	*東大の過去問や模試の過去問を解きました。	*化学はあまりやりませんでした。	*センター試験対策で過去問を2、3年分解きました。	*残しておいた過去問(2010-2016)で演習しました。 *これまで解いた問題を総復習しました。	*必要な知識を早く入れること *パターンに慣れること	*化学グランプリ金賞
理三 56 (55)	*『化学の新研究』(三省堂)を隅々まで読みました。 *『化学の新演習』(三省堂)を完成させました。	*『新理系の化学問題100選』(駿台文庫)をやり始めました。夏休みの終わりに一週しました。	*模試で間違えた部分、よく陥りやすいミスやノートにまとめた(これが後で大いに役立つのですごくオススメです)。	*『東大の化学25ヵ年』(教学社)で過去問を開始しました。	*模試の過去問を物理とセットで150分でやり始めました。本番と同様の解答用紙でやりました。	*センター対策はしませんでした。全くやらないと「センターぼけ」すると思ったので、数日に一度は物理と合わせて150分でやりました。	*自分でまとめたノートをよく見返してました。これでケアレスミスの数はほぼゼロになりました。	*化学は小さなミスの積み重ねで点を取りにくい教科です。なので、ミスを自分でまとめることが重要となってきます。僕自身もポイントやミスしやすい所をノートにまとめた後は点数が50点以上で安定しました。	
理三 53 (55)			*有機化学のみ『化学重要問題集』(数研出版)を用いて演習しました。 *次に、『化学の新演習』(三省堂)を1周しました。	*『化学の新演習』(三省堂)の2周目をやりました。未習だった高分子分野は『セミナー化学』(第一学習社)を用いて、復習しました。 *11月から物理と合わせて過去問演習を始めました。	*センター試験のために、無機・有機の知識の詰め込みを中心に勉強しました。	*センター化学の直近2年分を演習しました。 *無機・有機の知識を詰め込みました。	*残っている過去問をやりました。11月から全部で直近10年分の過去問を2周くり返しました。 *『化学の新研究』(三省堂)を一通り読み直しました。	*『化学の新研究』(三省堂)を読み、分からないことは周りの信頼できる人に質問して、とことん深く理解しようとするが良いと思います。 *模試や入試の直前には、無機・有機の知識を確認すると良いです。	

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント	特記事項
理三 48 (45)	*一通り化学を学び、『化学の新演習』(三省堂)の理論分野を解きました。	*『化学の新演習』(三省堂)の有機分野を解きました。無機・高分子はすべての問題を解くことはできませんでした。	*3問90分や、物理とあわせて150分セットの演習を何回かしました。 *苦手単元は『化学の新演習』(三省堂)の問題を解き直したりしました。	*夏休み前よりも難しめの問題を解くことが多かったです。	*『東大の化学25年』(教学社)で、大問ごとにバラバラで過去問を解きました。	*無機や有機を中心に暗記事項を復習しました。	*物理とセットで過去問を時間をかけて解いていました。	*もう少し化学の演習量を多くすればよかったかなと思います。化学はミスをしやすいので、本番と同じ形式での練習が効果的だと感じました。	
理三 55 (55)	*『化学の新演習』(三省堂)基本問題が集めてあり、全問題の完全理解に努めました。	×	*『新理系の化学問題100選』(駿台文庫)東大形式に近く、時間を気にしながら一問一問丁寧に解きました。		*東大模試の過去問(駿台、河合塾)を物理とセットで解きました。	*センター試験対策は国語や社会に時間を割くべきだと思い、特にしませんでした。	*これまで扱った問題のポイントをノートにまとめました。このノートは本番、本当に重宝したのでおすすめです！！	*計算力upには演習の繰り返しが必要不可欠です。普段から手での計算を怠らないようにしましょう。	

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント
理二 (40)		*学校で配られるテキストを演習していました。	*田部眞哉先生の授業を受講しました。 *この頃から教科書を読み始めました。	*学校で配られるテキストによる演習をしながら教科書を読んでいました。 *東大過去問を化学と合わせて150分で解いていました。		*教科書や田部眞哉先生のテキストにより知識を総復習しました。	*東大過去問と模試過去問を化学と合わせて150分で解きました。 *教科書に書いてあることで知らないことをピックアップして書き出しました。	*生物は教科書が大事ですが、複雑な問題に対応できるようにしましょう。 *最近の話題やニュースなどもチェックした方が良いでしょう。
理二 33 (30)	*『リードα 生物基礎+生物』(数研出版)を学校の進度に合わせて1周解きました。	*『リードα 生物基礎+生物』(数研出版)の2周目を解きました。	*『リードα 生物基礎+生物』(数研出版)の2・3周目を解きました。	*『リードα 生物基礎+生物』(数研出版)の間違った問題のみ4周目を解きました。		*センターの過去問を25年分解きました。	*過去問7年分・東大本番レベル模試の過去問を解きました。	*教科書が大切です。
			*生物の教科書(数研出版)の精読をしていました。					
理二 36 (44)	*学校の勉強のみでした。	*塾で勉強し、成績が上がりました。	*田部眞哉先生の講義を受けて知識の甘さを認識しました。教科書(『生物基礎』『生物』(ともに東京書籍))を精読しました。	*模試の過去問を6年分、東大の過去問を2年分解きました。	*センター試験対策として、教科書の精読は続けていました。	*センター試験の過去問2年分(新課程)と教科書の精読をしました。	*「余計な問題はやるな」と田部眞哉先生が仰ったので、東大の過去問を8年分と教科書の精読のみしました。	*教科書の精読につきます！！
理二 40 (35)				*教科書『生物』(数研出版)を高2の冬から読み始めました。				*教科書の知識を正確に覚えることが一番です。

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント
文一 30 (30)	*特に何もしてませんでした。取かかりが遅かったのが悔やまれます。		*夏休み終わりごろにはセンターで80点くらい取れるようになりました。	*通史が終わって一段落ついたので空白期となっていました。 *10月頃から論述に取り組みました。 *11月から教科書を読み始めました。	*教科書の精読を中心に行いました。 *第2問対策はほとんど行いませんでした。	*2～3年分演習したのみです。 *年代と文化史のみを取り出して暗記しました。	*第2問対策を怠ったのが悔やまれます。 *当日は解答欄を間違えて時間をロスしてしまいました。	*第2問は面白くない問題ですが、きちんと対策をすることをお勧めします。
	*塾のテキストを用い学習しました。 *流れを頭に入れることを優先し、一問一答などは使いませんでした。							
			*荒巻豊志先生の授業を受けていました。					
文一 36 (30)			*東大の第1問の過去30年分の中から古代～中世の問題に取り組みました。		*東大の第1問の過去30年分のうち近世から近代の問題に取り組みました。	*センター試験の過去問を5年分ほどやりました。知識の穴を見つける度に確認するというサイクルを取っていました。	*夏休みと冬休みに取り組んだ問題をそれぞれ3回ずつ復習し答えと内容を暗記するまで取り組みました。 *『東大の世界史25カ年』(教学社)を用いて10年分くらいを1回取り組みました。	*東大の過去問(特に第1問)は時間をかけて自分の頭で考えることが大事なので長期休み等まとまって時間をかけられる時期に取り組みと良いと思います。
	*世界史の通史のカリキュラムに沿って勉強していました。							
文一 35	*学校行事(運動会)が忙しく、ほぼ勉強はできなかったのですが、最低限はやっておこうと思い、『荒巻の新世界史の見取り図 上』(東進ボックス)を春休みに少しずつ読み進めていました。	*東進ハイスクールで「スタンダード世界史B」を受講し、そのテキストの予習と復習を中心に学習しました。他は何もやっていませんでした。(強いて言えば、『世界史B一問一答』(東進ボックス)を講座と並行してたまに進めていたくらい)	*引き続き「スタンダード世界史B」を受講しながら、アウトプットの練習と知識の拡充を目的として『実力をつける世界史100題』(Z会出版)を講座と並行して解いていました。	*10月中旬ようやく受講が終了したので、「スタンダード世界史B」のテキストの読み込みを中心にしながら、前述の『世界史B一問一答』(東進ボックス)で知識を詰め込みました。 *また、センター試験の世界史の演習も赤本を使って開始しました。二次試験の過去問演習も細々と行いました。	*他科目のセンター試験対策が中心で、世界史はあまりやっていませんでしたが、センター試験の世界史の演習と苦手分野の復習を行いました。	*『世界史B』(東京書籍)を用いて苦手な文化史の対策を行いました。 *また、前述の『世界史B一問一答』(東進ボックス)の読み込みも行いました。	*『東大の世界史25カ年』(教学社)を用いて一問一答と小論述だけを25年分すべて行いました。 *また、『世界史B一問一答』(東進ボックス)も改めて1周しました。 *大論述対策として、教科書と『荒巻の新世界史の見取り図』(東進ボックス)も1周しました。	
文一 40 (40)	*東進衛星予備校で「スタンダード世界史B」を受講しました。数をこなすことに集中しすぎてしまったのが反省点です。	*学校の定期試験対策をしっかりとやっていました。試験範囲の教科書と、一問一答をやりました。	*『ナビゲーター世界史B』(山川出版)を一通り読みました。	*東進衛星予備校で週1回のペースで10回にわたり行われた世界史短答テストに合わせて、帝国書院の教科書を読み、一問一答をやりました。	*『書きこみ教科書詳説世界史』(山川出版)を途中までやりました。また、用語を覚えるために『時代と流れで覚える!世界史B用語』(文英堂)をやりました。	*センター試験の過去問を15年分ほど解き、復習をしっかりとやりました。	*荒巻豊志先生のテキストを用いて、過去問を復習しました。また、東京出版の教科書を1周、一問一答を1周しました。	*問題集などを用いてアウトプットを行うことが大事です。 *二次試験対策をする前に、用語などの基礎を固めましょう。 *第1問対策は荒巻豊志先生の授業がおすすめです。第2問は教科書で使えるフレーズをチェックしていました。
	*荒巻豊志先生の授業を受けていました。							

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント
文二 44 (40)	<p>*『ナビゲーター詳説世界史B』(山川出版)全4巻で通史を終わらせました。 *『流れ図で攻略詳説世界史B』(山川出版)も時代の流れを視覚的に捉えるため、補助的に使用していました。</p>	<p>*実教出版、東京書籍の教科書を読み、論述で出そうな記述に下線を引いておきました。また、『一問一答』(東進ブックス)で★2～3を中心にやり、知識の補充をしていました。</p>		<p>*第2問の論点を拾うために、『世界史論述練習帳new!』(バレード出版)の巻末付録を読みました。</p>	<p>*荒巻豊志先生のテキストの総復習を行い、直前期に見直しがしやすいように第2問は別解も含めた解答、第1問は解く際のプロセスをまとめたメモを作成しました。</p>	<p>*センター試験の過去問を25回分解き、弱点分野を中心に一問一答や教科書で知識の補充をしていました(特に19世紀以降の文化史)。</p>	<p>*『書きこみ教科書詳説世界史』(山川出版)で知識の最終確認をしました。 *『世界史Bの焦点』(山川出版)で短答記述対策を行いました。</p>	<p>*第2問、第3問で失点を減らすことが一番重要です。第1問はおまけ程度に考え、作問者とう向き合うかを荒巻先生の授業で教わりました。知識は論述対策と並行して覚えるようにすると記憶に残りやすいです。年号も必要ならば覚えておくのと第1問で役立ちます。資料集は大体のページが頭に入るくらい参照していました。</p>
	<p>*荒巻豊志先生の授業の予習と復習を中心として論述対策を行っていました。第1問は授業後に解説を踏まえて自分なりの解答を作成していました。</p>							
文二 48 (40)	<p>*学校の定期試験対策のみでした。</p>	<p>*『世界史B』(東京書籍)を利用して古代～近世にかけて学校の授業で扱った範囲を復習しました。 *『荒巻の新世界史の見取り図 中』(東進ブックス)を中心に読みました。</p>	<p>*夏の東大模試前までに教科書と『世界史B一問一答』(東進ブックス)の★マーク3つのところのみを繰り返し、知識の補充をしました。</p>	<p>*荒巻先生の講座の復習と知識の補充を行いました。 *『荒巻の新世界史の見取り図』(東進ブックス)の上～下を何度も読み返しました。</p>	<p>*センター試験の過去問と『東大の世界史25カ年』(教学社)の第1問を重点的に行いました。</p>	<p>*センター試験の過去問のみを行いました(追試も含め10年分)。</p>	<p>*東進の東大本番レベル模試の過去問や他の東大模試の過去問を解き、時間配分を確認しました。 *一問一答も1日20ページなど決めて取り組みました。</p>	<p>*まずは知識を固めることが大切です。知識が無ければ大論述も小論述も第3問も得点することができません。その上で、大論述に必要な視点や世界史の流れを理解するようにしましょう。</p>
文二 29 (35)	<p>*通史のインプットが終わっていなかったため、学校のプリント・教科書・『山川一問一答世界史』(山川出版)を中心に通史を勉強していました。</p>	<p>*教科書からさらにふみこんだ学習をするため『荒巻の新世界史の見取り図』(東進ブックス)を使っていました。 *また一問一答に限界を感じ、『時代と流れで覚える!世界史B用語』(文英堂)という空欄補充型の問題集を使用しました。</p>	<p>*参考書は以前と同じものを引き続き使用しました。</p>	<p>*『東大の世界史25カ年』(教学社)を使用して第2問と第3問を重点的に行いました。 *また引き続き、『時代と流れで覚える!世界史B用語』(文英堂)で用語のインプットをしました。</p>	<p>*センター対策に重点を置いたため『東大の世界史25カ年』(教学社)の第3問のみをやりました。 *また引き続き、『時代と流れで覚える!世界史B用語』(文英堂)での用語のインプットや教科書の読み込みを行いました。</p>	<p>*センター試験の過去問演習とその復習を重点的に行い、二次試験対策はあまりしませんでした。</p>	<p>*直前で得点の伸びが期待できる第2問と第3問を中心に、対策を過去問演習でしました。</p>	<p>*反復練習と過去問分析が重要です。</p>

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント	特記事項
文一 40 (38)	*学校の授業をしっかり聞き、暗記より理解をすることを意識していました。定期テスト前は暗記を重視しました。		*『ナビゲーター日本史B』(山川出版)という参考書で中世までの通史を終えました。 *8月後半からは過去問の傾向を把握するため、通史を終えた範囲の過去問を数題解きました。	*過去問と教科書の熟読を行いました。教科書の熟読は時間がかかりましたが、その分得るものも大きかったです。マーカーを引きながら読み進めました。	*センター過去問を30年分解き、間違えたものはメモを残し、センター直前に確認できるようにしました。	*残っていた文化史をやりました。教科書に出てくる作品、作者をまとめプリント(学校で配付)を使用して覚えていました。自分でまとめるのを忘れにくいです。	*過去問25年分の2周目を作り、さらに15年分の解説を読み直しました。頻出テーマについてはすぐ答えが言えるようになるまで、繰り返しました。	*はじめは簡単な参考書を使用してください。いきなり教科書を熟読しても効率が悪いです。また、過去問研究はどの科目よりも大切です。慣れるまでは東大日本史は難解に感じられるかもしれませんが、答えを覚えるだけでも役立ちます。問題を解いた後の復習にはしっかり時間をかけてください。	
文一 34	*特別なことはませんでした。			*『金谷の日本史「なぜ」と「流れ」が分かる本』(東進ブックス)を読み、友人と定期的に集まって問題を出し合うことで知識を定着させました。 *『ハンドブック日本史の要点整理』(学研教育出版)を適宜参照しました。	*『新日本史B』(山川出版)を最初から最後まで音読し、自分の知識に漏れが無いかチェックしました。	*『大学入試センター試験過去問レビュー日本史』(河合出版)を一日一回一年分解きました。	*『東大日本史問題演習』(東進ブックス)を流し読みしました。	*歴史的な出来事は全て人間の感情がもとになって起きたドラマであることに留意しながら勉強すると楽しく効率よく覚えることができます。	
文一 38 (30)	*『日本史B』(山川出版社)を知識の習得という目的で読みました。		*塾のテキストで主に論述の対策をしました。 *東大模試の復習を通して不足している点を明確化させました。これは大きな意味があったと思います。	*東大の過去問(古代～中世)を10年分ほどやりました。すぐに答えを見るのではなく自分の頭で考えることを意識して取り組みました。 *『日本史B』(山川出版)を読み穴を埋めました	*東大の過去問(近世～近代)を論述の勘が鈍らない程度にやりました。	*『日本史B一問一答』(東進ブックス)を使い細かい知識の確認をしました。 *過去問を5年分ほどやりました。やればやるほど伸びるわけではないのであまり時間をかけませんでした。	*東大の過去問を古代～近代まで年代別に集中的に取り組みました。時間配分の感覚が鈍ってしまうのには要注意です。	*夏休み以降も分からないこと、不安なことがあれば山川の教科書に戻るといふ姿勢を忘れないことが一番大事です。	
文一 39 (35)	*古代をやりました。	*中世をやりました。	*古代中世をもう一度読み、近世を読み直しました。	*近代をやりました。その後、焦って過去問を解きましたが、あまり身につきませんでした。	*山川の教科書を一周しました。	*センター試験の過去問を解きました。	*過去問を30年分解きました。直近10年分は年ごとに、それ以前は時代ごとにやりました。	*過去問は焦って解かなくても大丈夫です。	
	*『詳説日本史ガイドブック』(山川出版)を読み直しました。								
文三 31 (35)	*東進衛星予備校で「入試対策：センター試験対策日本史B」を受講し、『金谷の日本史「なぜ」と「流れ」が分かる本』(東進ブックス)で日本史の概観を掴みました。	*引き続き『金谷の日本史「なぜ」と「流れ」が分かる本』(東進ブックス)を読んでいます。	*『日本史B一問一答』(東進ブックス)をやりました。 *『東大合格への日本史』(データ・ハウス)で典型論述を覚えました。	*『詳説日本史ガイドブック(上・下)』(山川出版)を持ち歩き、かなり読み込みました。 *『東大の日本史25カ年』(教学社)やネットを利用して、日本史の過去問を30年分やり直しました。	*『センター日本史B一問一答』(東進ブックス)を5日で一週することを目標に毎日やりました。	*『センター日本史B一問一答』(東進ブックス)を続けつつ、2日に1度ほど過去問を解きました。 *80点台で伸び悩んでしまったので、『9割を狙え！解決！センター日本史』(Z会)で暗記事項を頭に入れました。	*『詳説日本史ガイドブック(上・下)』(山川出版)をベースに、過去問の解き直しや東大本番レベル模試の過去問で思考プロセスを確認しました。	*自分の頭で考えて、自分の手で書くことが重要！！日本史は暗記より、思考プロセスを身につけることを大切にしてください。	7月まで京大志望でした。
文三 43 (40)	*特に対策していませんでした。	*『日本史B一問一答』(東進ブックス)を利用して基礎を身につけました。 *山川の教科書を読み進めていきました。	*教科書を読むとともに、センター過去問25カ年を行い、解説を熟読しました。 *二次過去問を解きました。	*二次過去問を解き、2周目も進めました。	*赤本などで模範解答を暗記しました。 *二次過去問の2周目を進めました。	*センター過去問の復習を行いました。	*『東大日本史問題演習』(東進ブックス)の復習を行いました。 *模範解答と自作解答の比較を行いました。	*日本史については、とにかく様々な視点を手に入れることが重要だと思います。センターや二次の解説を熟読することで、重層的理解につながります。	

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント
文一 32 (30)	*空き時間に『村瀬の地理Bをはじめからていねいに』(東進ブックス)を読みました。		*薄いノート形式の参考書、『大学受験ココが出る!! 地理Bノート』(旺文社)を使用し、『村瀬の地理Bをはじめからていねいに』(東進ブックス)の内容を確実にインプットしていきました。空き時間には資料集の写真や表を眺めていました。	*引き続き、空き時間に『村瀬の地理Bをはじめからていねいに』(東進ブックス)を読みました。 *12月ごろからはセンター対策に移り、統計を覚えつつ、センター過去問を進めました。	*センター過去問を10年分解き、間違えた問題は当該箇所の資料を読み込みました。センター週間前までかけて『地理の研究』(帝国書院)を20日程度で一通り読みました。	*頻出の統計をひたすら暗記しました。地理は一つでも多くの統計を覚えている方が有利です。『地理B統計・データの読み方が面白いほどわかる本』(KADOKAWA)を使用しました。	*過去問を10年分解きました。私は年度ごとに解きましたが、分野ごとに解いた方が身になると思っています。	*センター試験も二次試験も必要な情報は変わらないので、簡単な参考書から始め、何周もすることが大切です。ただの暗記ではなく、自然や産業、人口など互いを関連付けることを意識してください。
文一 36		*特別なことはしませんでした。			*『センター試験地理B超重要問題の解き方』(KADOKAWA/中経出版)を二周して、センターにも二次にも通用する地理的思考力を身につけました。 *『地理の研究』(帝国書院)を適宜参照しました。	*『大学入試センター試験過去問レビュー』(河合出版)を一日一回一年分解きました。	*『新編 詳解地理B』(二宮書店)を流し読みしました。	*数をこなして地理的思考を育てていくことが地理の点数アップへの近道です。
文一 38 (35)	*東大入試同日体験受験が良かったので何もせず割と放置していました。	*地誌分野を得意にしようとする学校の教材で学習したもののそこまで良い学習はできませんでした。	*塾で問題演習をしていました。	*11月ごろから今まで解いてきた記述問題を精密に復習することで実力がかなり向上しました。		*センター試験用の教材をかなりやりました。	*15～20年分くらいひたすら過去問をやりました。	*結局は暗記も大事です。 *「あるある」を血肉化するのは数学と同じです。
文一 36	*学校行事の影響でほとんど勉強はできませんでした。	*学校で配付されたセンター試験対策の要点集を1周しました。また、地理の資料集(学校配付)も定期的に触れました。	*学校で配付されたセンター試験対策の要点集を1周しました。また、地理の資料集(学校配付)も定期的に触れました。	*資料集を通読し、また少しずつセンター試験、二次試験両方の過去問を解き始めました。	*センター試験対策の比率を上げました。ただ、他科目が忙しくあまり時間は割けませんでした。	*センター試験の過去問の演習を10年分ほど行いました。ただ、本番は82点と低く、危機感を覚えました。	*ひたすら二次試験の問題演習→復習で、二次試験の問題を解くための知識のストックを増やしました。インプット(教科書、資料集の通読)も欠かしませんでした。	*結局どう勉強をすればいいのかよく分かりませんでした。恐らく、知識を増やすより論述の際の引き出しを増やすことを意識すべきなのではないかと、今になって思います。
				*1年を通して東大特進の授業を受講し、配付されたテキストの通読を進めました。				

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント
文二 45 (35)	*『センター試験 地理Bの点数が面白いほどとれる本』(KADOKAWA/中経出版)を一通り読み、最低限の用語をチェックしておきました。		*『2017センター試験本番レベル模試地理B』(東進ブックス)をやり、解説を読み込みました。	*過去問10年分を解き、解説を熟読して、対比構造など論述作法や簡潔な表現を身につけました。		*センター試験の過去問を25回分解きましたが、古い年度は最新の統計もチェックしておきました。	*過去問10年分を解き直しました。 *東大本番レベル模試の過去問で演習を積み、採点基準を読み重要ポイントを把握しました。	*最低限の知識が身についた後は、センター形式の問題集で解説が充実しているものを選びましょう。二次試験用の参考書が少ないため、高橋和明先生のテキストは大変有用です。 *二次試験で世界史・地理選択の人は世界史に時間をかけるため、地理を早めに済ませる必要があるため、60字・90字の感覚をつかめると良いです。
		*東大特進のテキストを論述で出そうな所を中心にひたすら読んでいました。時々『地理の研究』(帝国書院)を参照していました。						
文二 43 (41)	*学校の授業のみで、主に『地理の研究』(帝国書院)を用いていました。	*『東大の地理25ヵ年』(教学社)を用いて、東大地理に必要な知識を補充しました。初めは少し考えてわからなければ解説をまずは読んで、自分のものにしましょう。	*夏休み前と同様です。 *東大模試の復習、特に解説を読むことをしていました。	*夏休み前と同様です。	*センター試験の過去問を始めました。同時に、10年分の二次試験を解き、ポイントをまとめるノートを作りました。	*センター試験の過去問を20年分ひたすら解きました。 統計の読み取りは二次試験に役立つと思い、二次対策はしませんでした。	*東進の東大本番レベル模試の過去問と他の東大模試の過去問を演習しました。 *新しく知った知識は一度で覚えられないか不安だったので、その解説に付箋を貼るなどしてくり返すようにしました。	*地理は、二次試験に関する参考書が少ないので、『東大の地理25ヵ年』(教学社)で過去問と触れることが有効だと思います。 *記述の文字数は多くないので、まずは要素を書き出して、簡潔にまとめ上げられるように練習すると良いです。
文二 36 (40)	*学校の添削課題を中心に論述をしていました。				*センター試験の過去問演習を10年分やりました。	*センター試験の過去問の復習をしていました。	*二次試験の過去問10年分の演習と復習をしました。	*早めに論述慣れすることが大切です。
		*『村瀬の地理Bをはじめからいねいに』(東進ブックス)を通読し、学校の添削課題を中心に論述の練習をしていました。						
文三 37 (35)	*東進で「入試対策:新センター試験対策地理B」の授業を受けていました。	*学校の授業のみでした。	*東進衛星予備校で「東大対策地理」の授業を受けていました。 *センター試験の過去問を7年分解きました。	*過去問10年分をやって東大地理の傾向を掴みました。 *東大模試前に、東進の「入試対策:新センター試験対策地理B」の教材を見直し、基本事項を確認しました。	*センターレベルを確実にするため、『センター試験への道 地理』(山川出版)を解いていました。	*センター試験の学習に特化しました。点数が伸び悩んでいたため、分野ごとに知識確認→過去問の流れをくり返したところ、点数が安定しました。	*過去問10年分の復習を繰り返し、更に新しい過去問や東大本番レベル模試を解いて未知の問題に対する思考力を養いました。	*地理の知識はセンター試験レベルで十分だと思うので、あまり時間を割きすぎないようにしてください！ *センター試験・二次試験共に過去問は10年分で十分だと思います。知識量より考え方が大切です。
文三 37 (35)	*自身では特に対策していませんでした。	*勉強の合間に資料集を読んでいた。	*センター試験の過去問の解説を熟読しました。 *二次試験の過去問を解き始めました。	*二次試験の過去問を解きました。	*二次試験の過去問の2周目を解きました。	*センター試験の過去問の復習を行いました。	*模範解答の暗記と、二次過去問の復習をしました。	*地理は高橋和明先生のテキストが非常に体系的にまとまっているので、そちらを中心に、わからない所を資料集等で調べるのが良いと思います。
		*東大特進のテキストとともに学習していました。						